

円滑な業務移行に向け

スキル移行・人材育成が重要



はじめに、総支部・岡本事務局長は、「九州カンパニーにおける『飛躍のステージへ』に向けた事業運営の見直し・強化については、これまでの労使間協議により、具体的な内容が明らかになった。本日の協議等をふまえ、分会労使間での協議を促進させるとともに、明らかにした事項について、組合員への周

知徹底に取り組んでいただきたい」とあいさつした。その後、総支部より、第14回総支部事務局長会議について報告を行った。特に、事業運営の見直し・強化に伴うビジネ

の人員移行時の労働条件については、移行にあたり労働条件差異が生じる場合は、モチベーション維持と円滑な人員移行を図る観点から、移行前と同様となるよう必要な措置を

4月20日(木)、第5回分会事務局長(TV)会議を開催し、各種会議の報告を確認するとともに、九州カンパニーにおける「飛躍のステージへ」に向けた事業運営見直し・強化に関わる会社見解(四次)について協議し、意思統一を図った。



8 県伝



発行所
NTT労働組合
九州総支部

〒812-0013 福岡市
博多区博多駅東3-2-28

TEL 092-714-8296
FAX 092-461-2242

発行責任者
田畑忠治
編集責任者
久保里美

旬感



副委員長(熊本エリア)
山本 寛

「連鎖」を止めろ!

4月4日、シリアで化学兵器が使用され、多くの民間人に犠牲者が出た。TVニュースで流された、呼吸困難に苦しむ子どもたちの姿を見たとき、涙が流れた。この悲しみ・怒り・もどかしさは、どこへ向ければいいのか、心が痛む。

その2日後の4月6日、アメリカは国連決議がないままに、制裁・正義・国家安全保障のためとして、シリアにミサイル攻撃を行なった。犠牲者も出ている。

化学兵器の存在自体が、あまりにも非人道的であることは間違いないが、「化学兵器だから」ということ

ではなく、人の命と引き換えにして、今、世界の国々は何を求めているのか、何が正義なのかがわからなくなる。

アメリカと北朝鮮との間でも、抜き差しならぬ状況に陥っている。日本への直接的な影響も懸念する。

このような「人殺し」の連鎖を止めるため、日本の果たすべき役割を考えると、これまで世界中に外遊を重ねてきた「安倍政権」が、アメリカの軍事行動を安直に支持するのではなく、今こそ、世界各国へ冷静な行動を取るよう説くべきではないだろうか。

実施するとの西本部労使間協議結果を報告し、確認した。引き続き議題では、九州カンパニーにおける「飛躍のステージへ」に向けた事業運営の見直し・強化に関わる業務移行に伴うミツシヨ各社間での役割分担、業務間連携の考え方、スキル移行を含めた人材育成の考え方——等の会社見解および総支部の受けとめについて提起した。

総支部として会社見解を確認するとともに、円滑な業務移行に向け、盤石な体制構築ならびにスキル移行を含めた人材育成が重要と認識することから、育成状況等を把握しつつ、必要な会社対応を行なうとの見解を示し、意思統一を図った。

本施策については、総支部労使間においてはおおむね解明が図られたものと認識するが、今後、分会労使間において具体化に向けた協議が加速することから、引き続き、分会労使間における協議状況等を見据えつつ、対応を行なうこととする。

はっちゃんねる

安全に注意し有意義な時間を

新年度も早や1カ月近くが経過し、今週末からゴールデンウィークを迎える。年休等を活用すると最大9日間の大型連休となる。この機会に実家への帰省や旅行などで車を使った長距離移動をされる方もいらっしゃるのではないだろうか。普段は、買い物や子どももの送迎など近距離での運転が中心の私も、すでに子どもの部活動の引率で長距離を車で移動することが決まっている。長時間運転することに加え、連休中は、渋滞等も予想されることから、余裕を持った行動をとり、いつもより安全に注意を払いながら行動しなければいけない。思っている、せつかくの休みだからこそ、安全に注意しつつ、有意義な時間を過ごすとともに、しっかりとリフレッシュし、連休明けからの仕事に向け英気を養いたい。

(野付 忍)

よつごんNTT労組へ

フレッシュな仲間が加入

4月18日(火)、2017年度入社の新入社員(グループ会社を含む)59人を対象に、組合加入説明会を行った。

はじめに、総支部・山下副委員長は、NTTグループ入社への歓迎の意を表わすとともに、労働組合の意義などに触れ、あいさつした。その後、総支部より、



加入説明会もよう

労働組合の社会的役割、共済をはじめとした福祉活動——等について説明し、参加者は、NTT労組の活動について理解を深め、新入社員全員が九州総支部の仲間に加わった。また、くまもと森都総合病院新規採用職員27人についても、4月7日(金)の組合加入説明会を皮切りに、九州病院分会が中心とな

り、職場単位などで順次行ない、全員加入に向け取り組んでいる。総支部は、新入組合員の組合活動への積極的な参加・参画に向け、今後も分会と連携し、フォロー活動に取り組むこととする。

「熊本地震」から1年

熊本地震から1年、風化させない取り組みとして、「九州8県伝」号外(4月14日発行)を発行しました。本号では、組合員の被災体験を紹介します。

水のありがたさを痛感

16日、本震発生時、私は熟睡中で、大きな揺れに目が覚めたものの、動くことができませんでした。揺れは5分以上続いたような体感で、外では物が落ちるような大きな音がし、テレビは足の上に落ちて身動きできず、このまま「死ぬのかな」と思いました。揺れが収まり周りを確認したところ、部屋中たくさんの物が散乱。とりあえず脱出しようと家族に声をかけ、外へ避難しましたが、屋根瓦が散乱しており危険な状態で、それからしばらくは車中生活でした。



大変だったのは、「寝床の確保」「道路の遮断」「食糧品の確保」などです。なかでも「家屋の応急処置」は困難で、屋根にブルーシートをかぶせた時、2回ほど転落しそうになりました。

本震の翌日から断水が続き、余震が続く中、飲料水と生活用水を求めて近くの小中学校に必死の思いで並びました。浴槽に移して溜めたはずの水は、翌日水漏れして空っぽ(笑)。「水」のありがたさを痛感しました。

震災後の大変な時に私たちが生活できたのは、仲間の皆さんの支援のおかげだと大変感謝しています。

(熊本分会 佐伯 富久)

NTT労組新聞

「熊本のいま」を特集

「熊本地震」発災から1年が経過しようとしている中、風化させない取り組みとして、NTT労組新聞が「特

復興や避難所対応等に直接携わった行政責任者へのインタビューをはじめとして、家屋・道路・液状化などの被害状況を視察し、仮設住宅にも出かけた。



インタビューに答える阿蘇市・佐藤市長

など、事前調整から取材同行に至るまで対応していただいた。NTT労組新聞の紙面上掲載できなかった写真・記事は、NTT労組ホームページ「トピックス」にアップされている。是非、ご覧いただきたい。(岡本 成司)



現地取材する中央本部情報宣部木村さん

中央本部情報宣部・木村職員が、熊本市・阿蘇市・益城町・西原村など被害が大きかった地域を中心に現地取材を行った。復旧・

くるりん

熊本分会

今回の取材については、NTT労組自治体議員団・鎌田熊本県議・田辺熊本市議・上田熊本市議の協力のもと、阿蘇市・佐藤市長(連合熊本推薦)に直接インタビューする

未来遺産

キリシタン大名「大友宗麟」

キリシタン大名として知られる大友宗麟(洗礼名ドン・フランシスコ)の銅像は、2015年2月に大分駅周辺整備に伴い現在の場所に移設された。大友宗麟は、「南蛮貿易」に熱心で、南蛮文化を積極的に流入させた。北部九州6国を支配したが、島津氏に敗れ急速に衰退した。

(大分分会 吉村 富弥)

